



兵庫医科大学病院

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL.0798-45-6111(大代表)
<http://www.hosp.hyo-med.ac.jp/>

東日本大震災への支援活動について

3月11日に発生した東日本大震災により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様、そのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

当院では、震災当日に対策本部を立ち上げるとともに、厚生労働省からの要請のもと災害派遣医療チーム(DMAT)を派遣しました。同チームは翌日未明には自衛隊機で伊丹空港より花巻空港に赴き、同空港内に特設された「SCU(Staging Care Unit: 広域搬送拠点医療管理所)」内での医療活動、重症患者の航空機広域搬送に従事いたしました。

また、これに続き「救護医療チーム」を編成、派遣するとともに、継続した救援活動を行うべく後続班に交替のうへ5月末時点で計4班を派遣し、兵庫県救護班派遣チームの一員として医療救護活動にあたりました。

当院をはじめ、全国から参集した医療チームの活躍で、一人でも多くの被災者の方の救済を期待します。

なお、当院の医療救護活動については次のとおりです。

災害派遣医療チーム(DMAT)活動

- (3月11日) 災害派遣医療チーム【DMAT】(医師2名、看護師1名、臨床工学技士1名、放射線技師1名の計5名)の派遣を決定
- (3月12日) 早朝、伊丹空港から自衛隊機で岩手県花巻空港に派遣。花巻空港内に特設された「SCU(Staging Care Unit: 広域搬送拠点医療管理所)」内で医療活動に従事
- (3月13日) 重症患者を航空機により花巻空港から羽田空港へ搬送
- (3月14日) 災害派遣医療チーム【DMAT】帰院



救護医療チーム活動

- (3月16日) 救護医療チーム【Aチーム】(医師2名、看護師2名、
～20日) 薬剤師1名、事務員1名の計6名)を福島県へ派遣
福島県内の避難所で医療活動実施、3月17日以降、
兵庫県からの要請により救護活動地域を宮城県に
移し現地避難所にて医療活動実施
- (3月18日) 救護医療チーム【Bチーム】(医師2名、看護師2名、
～21日) 薬剤師1名、事務員1名の計6名)を、宮城県石巻
市内の避難所へ派遣、医療活動実施
- (4月4日) 救護医療チーム【Cチーム】(医師2名、看護師2名、
～9日) 薬剤師1名、事務員1名の計6名)を、宮城県石巻
市内の避難所へ派遣、医療活動実施
- (5月2日) 救護医療チーム【Dチーム】(医師2名、歯科医師1
～6日) 名、看護師2名、薬剤師1名、事務員1名の計7名)
を宮城県石巻市内の避難所へ派遣、医療活動実施



また、当院地域医療・総合相談センターでは、被災者を対象とした医療相談窓口を設置し、分娩、入院、手術、人工透析等の受け入れ相談を受付けております。

今後も、復興のために私共にどのような支援活動が可能か考え全面的に協力していきたいと考えています。

新任部長の紹介**医療社会福祉部長**

/地域医療・総合相談センター副センター長 大松 重宏

平成23年4月に医療社会福祉部長、並びに地域医療・総合相談センター副センター長に就任いたしました。

私はソーシャルワークを専門とし、患者さんができるだけ住み慣れた地域でその人らしく生活できるようなサポートをめざし、相談支援業務に従事してきました。当院はがん診療連携拠点病院、肝疾患センター、認知症医療疾患センター等の機能を持ち、それに伴って患者さんやご家族のニーズも多様化してきています。それらに十分に応えるためには、阪神地区の医療を担う先生方と当院との連携をいっそう進めて行くことが最重要課題です。それは同時に、患者さんやご家族のためのネットワーク構築であることに他なりません。私自身、国立がんセンター(現国立がん研究センター)に長く勤務しておりましたので、その経験を活かすことができればと考えておりますが、地域が違えば、一から地域の特性や現状をまずは学ぶことから始めるべきであると思っております。

私事ですが26年ぶりに故郷である兵庫県に戻り、地元で地域の先生方と一緒に働けますことに誇りと喜びを感じております。ご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い致します。

がんセンター『がん診療支援室』をご利用ください

がんセンター がん診療支援室 看護主任 小牧 よし子

当院では、がんに関する不安、悩みや疑問について相談する窓口として、がんセンター内に「がん診療支援室」を設置しております。当院患者、そのご家族はもちろん、当院におかかりでない方々もご利用いただけます。

がん診療支援室ってなに？

- 医師から言われた説明や調べたこと、聞いたことが「よく分からない…」
「医療用語がむずかしくて理解が出来ない、誰かに分かりやすく教えてほしい」
「どう質問したら自分が知りたいこと、聞きたいことが分かるのかがわからない」
「治療の副作用のことや対処方法をもう一度教えてほしい」
「どういう飲み方をすれば、痛みがとれて生活できるのか教えてほしい」
せつかくの情報をうまく生かせないことはありませんか？
- 「がんと言われて何を考えていいか…」
「家族ががんになるなんて…」
「不安でつらい、くるしい」「このままの気持ちではうちに帰れない…」
などのなんとも言えない不安な気持ちありませんか？
- 「医療費ってどれくらいかかるの？」
「ホスピスとか緩和ケアって何？今後のことをどう決めたらいいの？」
「私は在宅の方がいいの？ホスピスの方がいいの？」
などの今後の生活について困っていることはありませんか？



あなたやご家族が、がんと上手に付き合っていくためにサポートを行う所です

相談支援室をどう活用したらいいの？

- うまく話そうと思わないでください、まずは今の気持ちを聞いていきます。
その中で何に困っているのかを整理していき、必要な情報があれば提供していきます。
- 面談あるいは電話での対応が可能です。
- 直接来ていただくか、外来・病棟の看護師や医師に連絡を取ってもらってください。
- 院内・外来の患者・ご家族であれば時間の調整をして医師との面談にも立ち会い、患者・ご家族の希望が医療者に伝わるようにサポートします。

- 対応時間 : 平日の午前 9:00~11:30
午後1:00~4:00
第1・3土曜日 午前9:00~12:00(予約のある方のみ)
- 対応方法 : 面談あるいは電話 (原則1時間以内)
- 相談対象者 : がんに関するご相談であれば、どなたでも対応します
- 相談場所 : 8号館4階 がんセンター内 がん診療支援室
- 電話番号 : (0798)45-6762

* プライバシーは守りますのでご安心ください



専門外来の紹介

眼科 「ドライアイ外来」

眼科 助教 細谷 友雅

当院では平成19年4月よりドライアイ外来を開設しました。

ドライアイは国内の推定患者数が800万人以上ともいわれ、身近な疾患ですが患者さんのQOLを損ないやすく、適切な治療が必要です。当外来では軽症例から、自己免疫疾患や造血幹細胞移植後の移植片対宿主病に伴う重症例まで、幅広い患者さんに対応しています。スタッフは神野早苗准教授と私の2人で、毎週火曜日の午後から予約制で診療を行っています。

当外来では患者さんとの対話を重視しています。初めてドライアイ外来を受診された患者さんはまずゆっくりお話を伺って、どのような症状で困っているのか問題点を明確にします。実際に使用している点眼があれば市販薬も含め、使用法、点眼回数を詳細に聴取し、再診の方にも実際にできた点眼回数を毎回確認するようにしています。

ドライアイの原因、程度を考えた上で治療を選択し、重症例に対しては涙点プラグ挿入術や涙点焼却術などの外科的治療も積極的に行っています。涙点プラグは固形プラグ2種類と液状プラグを常備し、最適なものを選択できるようにしています。患者さんにご自身の目の状態を理解していただき、納得してもらってコンプライアンスをあげることが最も重要と考えていますので、モニターに前眼部写真を写しながら現在の目の状態について説明し、ドライアイは慢性疾患であるため点眼を継続していく必要があること、また実際の点眼方法についても時間をかけて説明しています。

阪神間にはドライアイ大家とも言うべき先生方がたくさんいらっしゃいます。このような環境でドライアイ外来の看板をあげさせていただくには当院の診療レベルも常に高いものでなければならず、患者さんに満足していただける診療を目指して、日々精進努力を心がけております。

ドライアイでお困りの患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。今後ともより一層のご指導ご協力をお願い申し上げます。



「看護の日」記念行事を開催しました

平成23年5月12日(木)1号館1階ロビーにて、「看護の日」の記念行事として、アンサンブル・ルタオ(LUTAO)のみなさんによるギター、マンドリンなどの演奏会を開催しました。

入院・外来患者さんやそのご家族などたくさんの方々が来場され、ギターやマンドリンの音色が響き渡った会場は和やかな雰囲気に包まれました。

また、「ふれあい看護体験」として、応募のあった一般の方々の中から、実際の看護の現場で患者さんとふれあう機会を設け、看護体験をしていただきました。

